

結 果 の 概 要

1 出生数は減少

出生数は100万3539人で、前年の102万9816人より2万6277人減少し、出生率（人口千対）は8.0で前年の8.2より低下した。合計特殊出生率は1.42で前年の1.43より低下した。（第1表）

母の年齢（5歳階級）別にみると、出生数は14歳以下及び20～39歳の各階級では前年より減少したが、15～19歳及び40歳以上の各階級では増加した。合計特殊出生率の内訳は20～29歳の各階級では前年より低下したが、15～19歳及び30～49歳の各階級では上昇した。なお、30～34歳の階級が最も高くなっている。（第4表（1）、第5表（1））

出生順位別にみると、出生数はいずれの出生順位も前年より減少した。合計特殊出生率の内訳は第1子及び第3子以上は前年より上昇したが、第2子は低下した。（第4表（2）、第5表（2））

母の年齢（5歳階級）別と出生順位別を併せてみると、出生数は20～34歳の各階級ではいずれの出生順位も前年より減少したが、40～49歳の各階級ではいずれの出生順位も前年より増加した。合計特殊出生率の内訳は20～29歳の各階級ではいずれの出生順位も前年より低下したが、35～44歳の各階級ではいずれの出生順位も前年より上昇した。（第4表（3）、第5表（3））

2 死亡数は増加

死亡数は127万3004人で、前年の126万8436人より4568人増加し、死亡率（人口千対）は10.1で前年と同率となった（第1表）。

死因別にみると、悪性新生物の死亡数は36万8103人で、死亡率（人口10万対）は293.5であり、死亡総数の28.9%を占めて死因順位の第1位となっている。なお、第2位は心疾患、第3位は肺炎である。（第6表）

年齢調整死亡率（人口千対）は男5.0、女2.6で、男女ともに前年の男5.1、女2.7より低下した（第1表）。

3 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△26万9465人で、前年の△23万8620人より3万845人減少し、自然増減率（人口千対）は△2.1で前年の△1.9より低下し、数・率ともに8年連続でマイナスかつ減少となった（第1表、第2表－1、第2表－2）。

4 死産数は減少

死産数は2万3524胎で、前年の2万4102胎より578胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は22.9で、前年と同率となった（第1表）。

5 婚姻件数は減少

婚姻件数は64万3749組で、前年の66万613組より1万6864組減少し、婚姻率（人口千対）は5.1で前年の5.3より低下した（第1表）。

6 離婚件数は減少

離婚件数は22万2107組で、前年の23万1383組より9276組減少し、離婚率（人口千対）は1.77で前年の1.84より低下した（第1表）。